

2022年11月25日

各 位

株式会社 ユビテック

作業者の安全見守りサービス「Work Mate」が **総務省後援「第16回 ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2022」** **AI部門で働き方改革賞を受賞**

株式会社ユビテック（本社：東京都港区、社長：大内 雅雄）は、一般社団法人日本クラウド産業協会（略称：ASPIC、東京都品川区、会長：河合 輝欣）が2022年11月16日に発表した「第16回 ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2022」のAI部門において、作業者の安全見守りサービス「Work Mate」が「働き方改革賞」を受賞しましたのでお知らせします。



表彰式の様子

（左から、Work Mate事業責任者 小林、AI開発責任者 宮内、AI開発担当 三上）

1. 「ASPIC IoT・AI・クラウドアワード」について

ASPICが主催する「ASPIC IoT・AI・クラウドアワード」は、総務省などの後援により、社会に有益で、安心・安全な国内のクラウドサービス等を表彰する賞です。クラウドサービス事業者およびユーザー企業・団体の事業発展・拡大を積極的に支援し、クラウドサービスが社会の情報基盤として発展・確立することを目的に2006年より実施されています。詳しくは、[「ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2022」公式サイト](#)をご覧ください。



2. 作業者の安全見守りサービス「Work Mate」のAI活用について

ユビテックでは、AI・データ活用による価値創造を柱とし、サービスの訴求力を構築しています。2017年より、社内にIoTイノベーション室を設立し、AI・データ活用を専門的に推進しています。

今回表彰された「Work Mate」では、「熱中症予兆検知機能」でAIを活用しています。「熱中症予兆検知機能」は、社内およびお客さま環境での実証実験で得た熱中症初期症状の症例データなど、約5年間で得たバイタル情報から予兆検知アルゴリズムを構築し、ご利用者の個人データを機械学習する機能を加えることで、検知精度を進化させています。

また、試行運用中の「注意力低下検知」機能にもAIを活用しています。バイタルや活動量データの分析を深化させることで危険予知を行い、労災事故の未然防止を目指しています。

3. 今後の展開

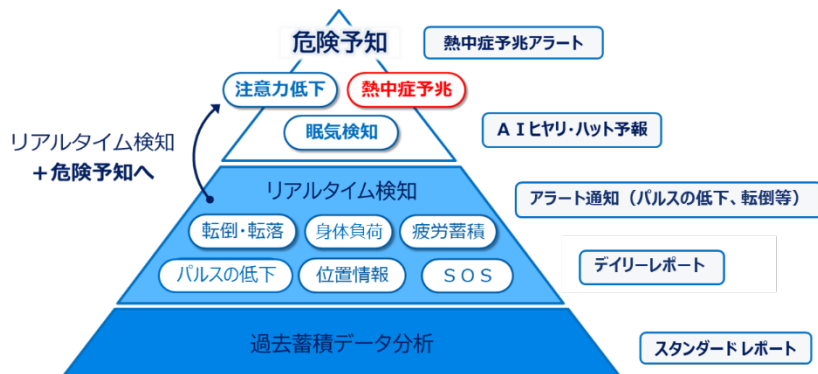
ユビテックは、今後も作業現場における「Work Mate」のさらなる有効性、機能性向上を目指していきます。また、「ヒト」にまつわるデータの価値創造を最優先し、AI・データ活用のエキスパティーズ(専門的技術)を高め、「危険予知・予防」をコンセプトとしたサービスを展開してまいります。

以 上

<p><本件に関するお問い合わせ先> 株式会社ユビテック 広報マーケティング室 小笠・細野 TEL:03-5447-6732</p>
--

■ 「Work Mate」 のコンセプト

転倒・転落や各種体調変化のリアルタイム検知に加え、バイタルや活動量データから熱中症予兆や注意力低下などの「危険予知」を行い、労災事故の「未然予防」を目指す



■ 「Work Mate」 の特徴・機能

<p>01</p> <p>熱中症予兆検知</p> <p>作業者のバイタル情報と周囲の温湿度状態を把握して熱中症予兆を推定</p>	<p>02</p> <p>転倒・転落検知</p> <p>作業者が転倒・転落した際に管理者へアラート通知</p>	<p>03</p> <p>SOSアラート通知機能</p> <p>スマートウォッチ上で所定の操作をすることで作業員から管理者へ SOS 発報</p>	<p>04</p> <p>屋内外位置測位</p> <p>作業者の現在の屋内外作業場所を測位し、リアルタイムにウェブ画面上に表示</p>	<p>05</p> <p>バイタル情報測定</p> <p>バイタル、活動量を可視化 (パルス、体調レベル、疲労レベル、身体負荷、歩数、カロリー)</p>
---	--	--	--	---

※ 熱中症予兆検知について



- ・実証で得たバイタルデータから熱中症の「予兆」を検知するアルゴリズムをユビテックが独自開発
- ・日々のバイタルデータの個人特性を AI が学習することで、検知精度が進化し続けていく
- ・回復状態も検知し、現場での適切な休憩および現場復帰を促す

☑ 転倒・転落検知の本人確認画面・通知

☑ 体調レベルの変化通知



・「Work Mate」は、医療機器ではなく、疾病の診断、治療、予防を目的としていません。
(※株式会社ユビテックはオリックスグループです。)